



瀬戸内海地域における ICT 利活用の現状と課題（今治市関前）

坂本 世津夫

四国情報通信懇談会運営委員長

瀬戸内海の島嶼部には、まだまだブロードバンドを使いたくても人口が少ないためにブロードバンドが整備されていない島々が存在しています。

現在、四国情報通信懇談会などで四国の情報通信環境整備と利活用に向けて様々な取り組みを展開していますが、昨年（平成24年）の9月から「ICT 地域マネージャー派遣事業」として、今治市の関前地区に出向いていました。本事業



では、ICT 環境整備（ブロードバンド整備）の課題を洗い出すとともに、島民の ICT 人材の育成を図るためのアドバイスをおこなっていました。

具体的には、ブロードバンド化が立ち遅れている地域における整備条件を整理するとともに、乗り越えるべき課題を明確化し、また ICT 環境整備のみではなく、住民の ICT 化に関する機運の醸成を図るとともに、活用手法などの研修を実施しました。

愛媛県今治市の関前地区（岡村島、小大下島、大下島）は、光回線が整備されている広島県呉市島嶼部と「とびしま海道」で連絡されているものの、県境にあり、ISDN 回線のみでの整備に留まっています。このため離島部の ICT 環境が立ち遅れている状況にあります。ブロードバンドは、今や国民の安全・安心、防災、情報、教育、生活、産業などにとってなくてはならないものとなっていますが、それからとり残されている地域がまだまだ多い状況にあります。離島に限ったことではないですが、整備後の利活用に

についても、十分なビジョンが描けていません。利活用がイメージできない反面、ブロードバンドに対する漠然とした期待と、利活用したいという住民意識は高まっている状況です。しかし、現実的にブロードバンドを実感（体感）できない点に、大きな課題があります。



それを解消すべく、昨年9月より勉強会「誰にでもわかる高速通信の基礎」を開催してきました。勉強会では、この17年間で通信速度が如何に速くなったかを示し、現在ISDN環境である関前に対して、もしブロードバンドが整備されればどのようなことが可能になるかを示してきました。勉強会では、関前（岡村島）で使用可能なWiMAXを使用してネットワー

クに接続し実例を示しましたが、やはり通信速度はISDNの数倍程度しか出ない状況で、電波を受信できる場所も限定されていました。

昨年10月から、関前諸島の情報発信サイト「きないやせきぜん」をプラットフォームに、如何に情報発信していくかを検討しています。基本的にISDN環境しかないため、重たい動画などをアップすることができない状況ですが、画像などはできるだけシンプルにして、とにかく情報発信につとめています。今後、ブロードバンド化を前提に、より高品質なコンテンツ（映像や画像）を制作して、観光客など、人々の流入につなげたいと考えています（移住促進にも）。また、新たな商売（eコマース）の仕組みも検討しています。

地域情報化の推進を成功させるためには、やはり現地に人材がいることが最大のキーポイントです。いくらアドバイスを行っても、情報化を理解できる人材と、それを実現できる人材、すぐに実行できる人材がいなければ、まるで進みません。幸なことに、関前にはICT技術に長けた2人の地域おこし協力隊員がいました。メールでの指示も的確にこなしてくれて、勉強会の準備から関前地域のICT環境調査まで全て彼らが行いました。彼らは、コンテンツ制作に関する「感性」と「技術」も素晴らしいものをもっています。また関前には「人」を含め、素晴らしい地域資源がたくさんあります。ブロードバンド環境が実現できれば、人口の増加（観光、移住など）、産業の活性化に向け

て様々な取り組みが展開できるし、とびしま海道、しまなみ海道など、地域全体を繋げて活性化が図れると考えています。

ICT 地域マネージャーとしての派遣は 2 月で終了しましたが、勉強会は 3 月以降も自主運営で行われています。今後、関前地域でブロードバンド整備と ICT 利活用に関する協議会（仮称 関前高速通信利活用推進協議会）を立ち上げ、さらに検討していく予定です。

関前は、瀬戸内海国立公園の中心に位置し、景観といい、海産物といい、柑橘といい、人々といい、素晴らしい地域資源をもっています。今後、関前でだけではなく日本の ICT の利活用には、視点（パラダイム）の転換が必要だと思います。新たな視点で見ると、瀬戸内海地域（日本）は資源の宝庫であり、ライフスタイル・ビジネススタイル、社会通念を転換させると、瀬戸内海地域（日本）は素晴らしいエリアとなる可能性があります。生活様式をダウンシフトさせ、今までの出世競争や長時間労働、生活環境を見直し、よりゆとりのあるストレスの少ない生活に切り替えることにより、新たな価値が創造されると思います。

ICT の利活用は、まさに新たな価値創造への鍵だと考えています。これから必要なのは、今までに経験したことのないスマート社会の実現です。

きないやせきぜん

<http://www.sekizenweb.com/>

四国情報通信懇談会 <http://shikoku-ict.jp/>

私からの話は以上です。

ICT 環境が立ち後れているのは、瀬戸内の島々に限ったことではありません。特に離島でのブロードバンド整備は、本土と同様なサービスを受けることのできる手段として、また、地域の活性化のための方策として活用できるはずです。関前地区の取り組みが他の地域の模範となるよう、今後も支援をしていきたいと考えています。

今回は、熊本の広岡淳二さんにバトンを引き継ぎます。広岡さんは、実際に地域に入り、住民の方々と接し、ICT 利活用を促し地域を豊かにする取り組みをされています。とても KIAI の入った活動をされています。

それでは広岡さん、よろしく願いいたします。